

小噺・落語入門サロン

■ 前座 (今日の話題・話のネタ)

「ヒライ信」300号

落語歳時記シリーズ

8月の落語「千両みかん」

大家の若旦那が原因不明の病気になる。名医の見立てによると気の病だという。番頭が聞きだすと、若旦那は欲しいものがあるという。恋患いとか思いきや、若旦那「・・・実はみかんが食べたい」

番頭「まかしときなさい、みかんを買ってきます」と安請け合いする。番頭から話を聞いた旦那は、この暑い土用の最中にどこにみかんがあるのかと番頭を問い詰め、もし、みかんが手に入らず、せがれががっかりして死んだら、おまえは主殺しの下手人で、訴えると番頭をおどし、みかんを探しに回って必ず買って来いと番頭に言いつける。

番頭は暑い中をみかんを探しにあちこちの八百屋を回り始めるが、1個のみかんも見つからない。みかん問屋に行くと蔵に囲って保存してあるみかんを出してくれるがどれも腐っていてまともなみかんはない。やっと一つ無傷のみかんが見つかる。

みかん問屋は二分や一両では売れないと、値段は千両だという。番頭は店に戻る。

旦那「安い！せがれの命がたったの千両で買えるなら安い」千両箱を出して早く買ってこいと番頭を追い立てる。

千両で買って来たみかんを番頭は若旦那の前へ出す。皮をむくとちょうど10袋で、一袋100両の勘定だ。若旦那は喜んで食べ始める。7袋食べたところで、両親に1袋ずつ、番頭に1袋食べてくれとって差し出す。

番頭は有難くみかんを3袋持って廊下に出たが、みかんを見て考え込んでしまう。

奉公して来年あたり、暖簾(のれん)分けの時にもらう金が50両、このみかんは300両。

「ええままよ」と番頭、みかん3袋持ったまま、ドロソしてしまった。



■ 二つ目 (小咄の稽古)

映像や音声から学ぶ、小ばなしのコツ・つぼ

「プロに学ぶ小噺の話し方」「こいがたかい」

そのあと、皆さんの小ばなし披露とアドバイス

■ 大喜利

今回も **謎かけ** で、お題は「ビール」「山」とかけて

次回は2024年9月5日(月)「宝くじ」「敬老の日」とかけて